和歌山大学教育学部附属小学校

らいぶ LIVE 創 つくりえいたー CREATOR

NO.43
2008年12月
研究広報誌

学びの質の高まりをめざして

CONTENTS

●教育研究会より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1・2
●学習紹介：「１年生国語科くじらぐも」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
●学習紹介：「附属っ子ミュニケーション『和み大作戦！』」・・・・・・・・・・4
●学習紹介：「『はい，喜んで！』出前授業を愉しんでいます♪」・・・・・・・5
●学習紹介：「イメージの表出・共有を通して」・・・・・・・・・・・・・・・・6
●学習紹介：「小学校英語活動の必修化に向けて！」・・・・・・・・・・・・・・7
●コ ラ ム：「２００８修学旅行記」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

# 2008 教育研究発表会を終えて



研究主任　　志場　俊之

今年も，７００名を超える方が参会してくれました。多くの方の視線を受けながら，本校研究会を開催できたこと，厚くお礼申し上げます。

「学びの質の高まりをめざして」という研究主題を掲げて２年，佐藤先生にアドバイスをいただきながら研究を進めてまいりました。

研究主題についての共通理解を図るため，校内研修にワークショップ形式を取り入れ，私たち自身も学ぶ機会を持ち，「主体的な学び」を肌で感じようと努めました。グループによる協同的な学びを体験することで，グループで学ぶことの意味を知りました。また，授業でも，本格的にグループによる協同的な学びを推し進めています。

学びの質をどのように捉え，それをどのように高めていくのか。また，みとりや支援にどのような視点を持てばよいのか。どのような場面で，どのようにみとり，どのように支援していくのか。悩み続けた末にできあがった「学び」は，私たちの渾身の力作であります。午前中，のべ２４の教室で，個性ある教師の個性あふれる授業を提供することができたと自負しております。

私たちの取り組みに対して，記念講演をしてくださった佐藤学先生から，いくつかのご指摘をいただきました。

3 つの重要な成果

① 聴き合う関わりが成立し，しっとりとした教室が実現していること。
② 黒板からプロジェクターへ教室環境の整備がされていること。
③ ジャンプのある学びへの挑戦がされていること。

3 つの課題＝「授業」からの脱皮―学び合いの創造

① 教師のポジショニングを研究すること。（聴く，つなぐ，もどす活動の位置取り）
② 学びのデザインを単純化し，子どもとの関わりを細やかにすること。
③ 小グループの活動をもっと活用し「ジャンプのある学び」を追求すること。

また，参会者の方々からも忌憚のないご意見やご指摘をいただくことができましたこと，とてもうれしく思っています。アンケートの内容も含め，真摯に受け止めるとともに，今後の研究に生かしていきたいと考えています。

佐藤先生が成果として挙げてくださった内容は，いわば学ぶための土台であり，その上に積み上げる「学び」の研究は，まだスタートしたばかりです。

学習形態のさらなる工夫や学びの質を高める学習課題の設定の仕方，子どもの主体性・協同性を持たせるグループ活動の研究など，まだまだ「学び合いの創造」へ向けての課題が山積しています。

また，「学びの質の高まり」を目指す前提としての「学習文化の創造」「みとりと支援」についても，なお一層，学級経営における重要な課題として位置づける必要があると痛感しています。

どの子どもも主体的に授業に参加し，どの子どもも課題に対して積極的にアプローチを繰り返し，そうして自分の力で学び取った喜びを実感できる「学び合いの創造」を目指し，努力していきます。そして，それが，より質の高い，深みのあるものになるよう，これからも研究を進めてまいります。ありがとうございました。

# 研究会 レポート

| | |
|---|---|
| 国語科 | 『発想力・論理力・表現力』の育成を意図した授業を構想し，言葉にこだわり言葉をつなぎながら，対象・他者・自己との対話をしっとりと重ねる子どもの学びの姿を見ていただきました。みなさんからのご意見を生かし，確かで豊かな言葉の力を育むべく，子どもたちと楽しい国語教室をつくっていきます。 |
| 社会科 | 今年度,『一人ひとりの学びの充実をめざして』をテーマに研究を進めてきました。研究発表会では,４年「和歌山の歴史が育んだ職人の技」・５年「日本の貿易と運輸」の授業を行い，それぞれのクラスで考えた課題についてみんなで話し合いました。授業後の協議会では貴重なご意見を多数いただきました。 |
| 算数科 | 算数科では本年度『子どもがつなげる算数科学習～思考の「ずれ」を生かして～』というテーマで研究を進めてきました。２年・３年・５年・６年の４教室で子どもの思考のずれを生かした授業を公開しました。協議会では多くの示唆あるご意見・ご助言を頂きました。今後の研究に活かしていきたいと思います。 |
| 理科 | 今年度も,「自然の“文脈”をさぐる子どもを育てる理科学習」をテーマに取り組みを進めてきました。３年生では，ゴムが起こす現象の“文脈”をさぐり，４年生では，電気のひみつをさぐるなかでエネルギー変換について考えました。子どもたちは実験結果や既習事項をもとにして，自分たちの考えを更新していくことができました。 |
| 生活科 | 「附属っ子ミュニケーション“和み”大作戦」のカリキュラムを中心にして，子どもたちの思いが広がる活動の姿を見ていただきました。協議会では，ご意見ご助言だけでなく，それぞれの学校の児童の様子などもお伺いすることができました。 |
| 音楽科 | 「楽しく学ぶ音楽の基礎・基本」（２年次）をテーマに,〔共通事項〕を授業にどう取り入れていくかを事例研究をもとに提案しました。北は宮城県から南は沖縄県まで，大学教官や附属校，公私立校の先生方を多数お迎えしました。授業では，音楽づくりから音符の習得の過程（１年生）と，まど・みちおの短い詩への旋律創作（５年生）を発表しました。 |
| 体育科 | ２年生の「２Ａサッカー」では，低学年の子どもたちにパスを使った作戦を考えさせるための教材設定を工夫しました。５年生の「シンクロマット」では，個人技としてのマット運動を，音楽に合わせて学級全員で１つの演技を創りあげました。どちらの単元も，子どもたちどうしのかかわりで学びの質の高まりをめざしました。 |
| 家庭科 | 今年度家庭科部では，“実感が伴う授業”をキーワードに，子どもたちの生活力を育んでいきたいという願いをもって「ファーストフード」を追究することからスタートした題材を設定し，授業を行いました。栄養教諭との連携，保護者の授業参加など，子どもたちは家庭科らしいぬくもりを感じながら学びをひろげていくことができたことと思います。貴重な意見やアドバイスもたくさんいただくことができました。 |
| そうごう | 授業では，子どもたち自らが意見や考えをつなぎ，自然環境に対して自分たちはどう向き合っていくのかについて学び合う姿をみていただきました。協議会では，学び続ける子どもにするために，特に今後の総合的な学習の時間での評価について議論となりました。今後の課題として追究していきたいと考えております。 |
| 英語活動 | 英語活動では、国際交流活動と英語活動を関連させて，スカイ小学校にビデオレターを送ろうというプロジェクト型学習の一端を授業で見ていただきました。協議会では、英語活動の必修化に備えて，活発な質疑や意見を頂きました。今後の研究に活かしたいと思います。 |
| 複式 | 『主体的に学び合う複式教育』という研究テーマのもと，第１校時では１・２Ｆが国語，３・４Ｆが算数，５・６Ｆが理科，の学習において，また，第２校時では複式学級全児童による縦割り班活動「協力プロジェクトⅢ」において，子どもたち同士がかかわり合い，学び合おうとする姿を見ていただきました。協議会でいただいたご意見を，今後の研究に活かしたいと思います。 |

たくさんのご参加，本当にありがとうございました。

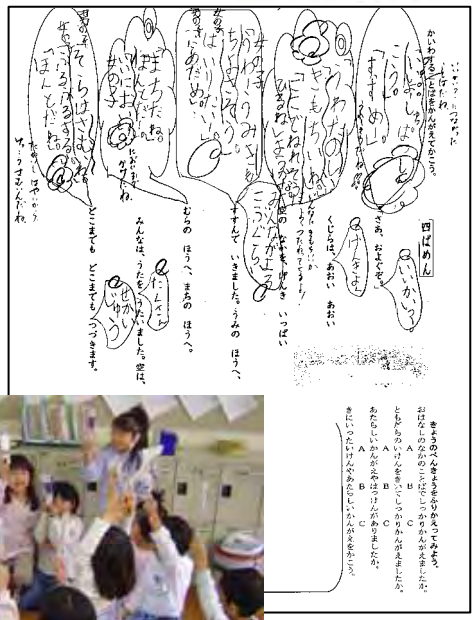
# １年生国語科「くじらぐも」
## ～育った活用力を検証する楽しみ～



１年Ｃ組　担任　西村充司

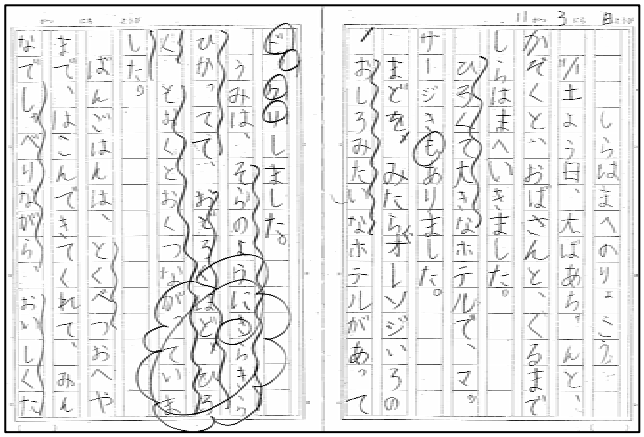
「活用」場面を重視した単元構想･授業デザインの成果は？！

本実践においては，単元構想の中で「活用」を意識している。右のようなワークシートを用いながら，自分の想像した様子や気持ちがよりよく伝わるよう，補いたい言葉や会話文を一人学びで書き込み，場面ごとに授業で出し合った。そこで出された仲間の発想や光る言葉を，いかに自らの創作に活かせるか。場面毎の読み取りを終えた後に書く，各自のオリジナル『くじらぐも』に，そんな輝きがみとれればうれしいと考えていた。



１１月１日の研究発表会で学習したのは４場面。**「うみのほうへ」**の上には，**「きれいな・きもちいい・ひろい・ながめがいい」**，そして，**「ひかっている」**。その言葉につながって，**「ピカピカの」「キラキラの」**を補いたいという子どもたち。

研究発表会後は３連休。研究会や連休中の出来事から，お気に入りの思い出を作文に書く宿題を出した。



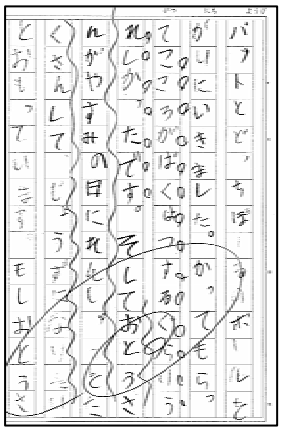


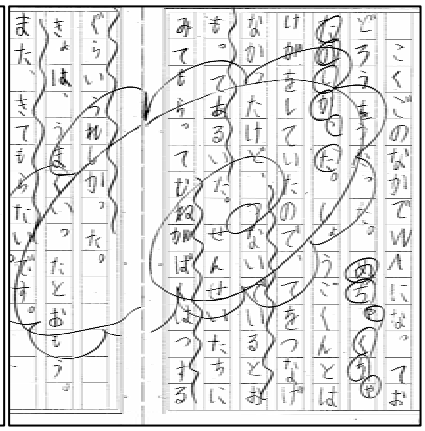


白浜のホテルの窓から見た景色がよほど気に入ったのだろう，**「オレンジいろの，おしろみたいなホテルがあってビックリしました。」**のあとに，**「うみは，そらのようにきらきらひかってて，おどろくほど，ひろく，とおくとおくつながっていました。」**と表現している。海の輝きと広さに対する感動を，自分なりに言葉を駆使して伝えようとしている。じっくり考えてみると，１１月３日との記入があることから，**「きらきらひかってて」**は，まさに２日前の授業中に共有した言葉である。また，**「そらのように」**の例え，**「とおくとおく」**にみられる繰り返しも，『**くじらぐも**』の学習を通して学んできた，その表現技法の効果を活かしてのものと考える。

まだ５場面の学習を残し，創作文オリジナル『**くじらぐも**』において習得した言葉を活用する力を磨く前に，既に普段の日記作文という，いわば生活の中に活用できた１場面と考えられる。

学習場面で出された言葉の活用は，**「きらきらひかって」**のような，子どもたちが通常使用する可能性の高い言葉に限ったことではない。





３場面**「そして，あっというまに，せんせいと子どもたちは，手をつないだまま，くものくじらにのっていました。」**について，**「のりました」**との表現の違いを考えた。**「知らない間に乗っていて，うれしさはどれくらいかな？」**との問いかけに，子どもたちからは**「とびはねるくらい」「付け足しで天まで届くくらい」「そこにすみたいくらい」**などが出された。そして，数日後の２人の作文にはその時同様に出された，**「心が爆発するくらい」**という度合いを表現する言葉が見られた。

授業で身につけた言葉の力が，日記という生活の中に確かに活用されている。この後各自が創作するオリジナル『**くじらぐも**』に，ひろがった言葉をどれだけ活かしてくれるのか，具体的な表現の中に見出していきたい。

## 附属っ子ミュニケーション『和み大作戦！』
### ～かかわり合い，どんどん広がる生活科～

生活科
2年B組
居澤　結美



**『和み大作戦！』ってどんな生活科？**

本校の生活科では英語活動と隔週で“附属っ子ミュニケーション『和み大作戦』”という年間１７時間のプログラム型カリキュラムを行っている。

内容は，校内に生えている自然の草花を採ってきて，お花飾りを作ったり，和室でのお作法を学んだり，お茶をたてたりと，体験・活動をとおして，よき『日本の生活(衣食住)習慣』『日本の季節感』を感じるものである。



「春らしくするには，こっちかな…。」



「日本茶ってこうやっていれるんだね。」
「あったかい気持ちになるね。」



「お茶室は，少しきんちょうするな。」
「お抹茶おいしいね。にがくないね。」



「お手前をぜんぶ，自分でしてみるよ。」
「ぼくのたてたお茶おいしい？」「かっこいい？」

そして，この“附属っ子ミュニケーション『和み大作戦』”を進めていく中で，子どもたちから生まれてきた思い・願いをもとに新しい単元を構成している。

例えば，「今まで学習してきたことをおうちの人に見てもらいたい。」という願いが子どもたちから出た時は，教室を和室に変身させ，お茶会を開いた。和室づくりをしていく中で，もっと“和”を感じるため，和歌山城のお茶室や庭園を訪れたり，野外いけばな展に行ったり，和菓子作りを見学したりと，様々な体験や活動を行った。そこで，おうちの人に出す和菓子も「自分たちで作りたい。」ということで，和菓子職人さんをゲストティーチャーとして招いて，教えてもらい，和菓子を作った。

また，「自分たちで育てた野菜を使って，お料理をしたい。」という時には，おうちの人と協力し，和食のお料理を考え，実習を行った。

さらに，“附属っ子ミュニケーション『和み大作戦』”は生活科だけの学習にとどまらず，国語科・図工科，食育教育とも関連づけて学習を深めている。国語科では季節の詩をお花飾りにそえたり，図工科では和室づくりやお花飾りで使う器を作ったりしている。食育教育では，自分で作ったお料理で食べ物の大切さを実感して学んでいる。

子どもたちが，この学習で一番変わったことは「相手意識を持つ」ようになったことである。

友だち，おうちの人，学校の先生，地域の人々，ゲストティーチャーなどたくさんの人と「かかわり合い」がある中で活動・体験を続けてきたことは，子どもたちにコミュニケーションの広がりと深まりを与えた。その中で，「こうしたら，相手はどう思うかな。」という相手意識を持って活動し始めたのである。そして相手意識は，生活科だけでなく，学校生活全体で芽生え，子どもたちがお友だちの気持ちを考え行動できる，思いやりのある心地のよいクラスになりつつある。これからも，「かかわり合い」と子どもたちの思い・願いを大切にし，生活科の学習をすすめていきたい。



「和室を作るためには，竹の入れ物！」
「ぼくも手伝う！」



「和菓子，お母さん，喜んでくれるかな。」
「上手にできたよ！」



「うわぁ，もうできた。まほうの手みたい。」
「あんなの作りたい。」



「お父さん，こうするんだよ。」
「そうか，分かった。」

# 『はい，喜んで！』出前授業を愉しんでいます♪

## ― 子どもの知的好奇心をくすぐる算数的活動･ICT活用を通して ―



算数科　梅本　優子

担任を離れて３年目…。今，出前授業で子どもたちと“愉しい♪算数的空間”を共有している。

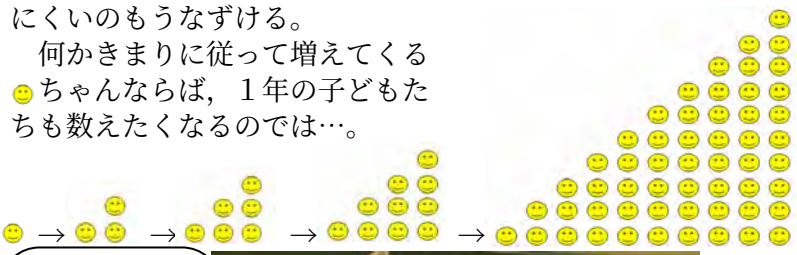
「ああ！この子はこんなところにこだわるんだ」「先行知識が豊富な子の弱点はここかあ～」「算数的コミュニケーション能力を養うには，こういう算数的活動が効果的なんだ！」等など…。担任ほどべったりではなく，全くの飛び込みでもなく，程よい子どもとの距離感が，心地よい『わたしと子どもたちとの算数的空間』をつくってくれているように感じる。

今回は，１年「100 までのかず」と６年「分数のかけ算・わり算」の出前授業の実践を，『子どもの知的好奇心をくすぐる算数的活動・ＩＣＴ活用を通して』をテーマに紹介させていただく。

＊1年「100 までのかず」

１年の子どもたちの生活のなかで，20 を超える数は「いっぱい」で，十分事足りることが多い。そのため，ずらっと並んだ何かを数える必要性・数えたいという好奇心がなかなか芽生えにくいのもうなずける。

何かきまりに従って増えてくる☺ちゃんならば，１年の子どもたちも数えたくなるのでは…。





はじめは，「2.4.6…」「5.10.15…」「10.20.30…」と，数えていた子どもたち。そのうちに，新たな発見が…！




そこで，『少しずつ数える対象が増える』・『10×10 に並んではいないが，きまりを見つけると，10 のまとまりが作れる』『100 未満から 100 へ，100 から 100 を少し超える数へ』と，子どもの知的好奇心・問題意識が発展していけるデジタルコンテンツを作成・使用した。

予想通り，このコンテンツは子どもにとってかなり魅力的であったようだ。「数えずにはいられない」「きまりが見えてくる」「より合理的にまとめられる」等，指導者がスモールステップで課題・問題を投げかけなくても，子どもの学ぶ意欲がつながる学習対象であった。

＊6年「分数のかけ算･わり算」

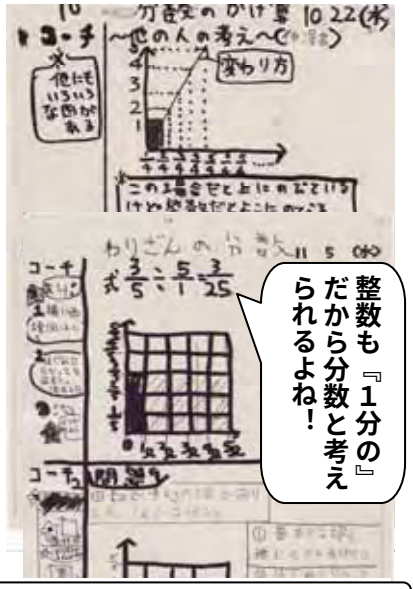


・整数に置き換えて，考えてみよう
・この分数だったら計算方法が見通せる
・この解決方法(図)を適用すれば，他の分数でも解決できるかも…

というような見通しをもって，自分の問題に取り組めるよう単元構成した。

また，数によって図を使いこなせるよう，子どもたちに自力解決できそうな『わる数』を設定させた。子どもたちは，それぞれ，単位分数・同分母分数・真分数等を選んで，友だちの考えと比べながら，自力解決していた。

線分図や面積図・関係図・グラフ等で，自分の考えをイメージ図として表出し，互いの考えを共有し，高め合う『算数的活動』が，子どもの“算数力(りき)”“基礎基本力(りき)”を育むのである。たとえ出前授業でも，1時間だけでも，しっかり子どもたちに考えさせたいものである。




かけ算は“グラフ”わり算は“面積図”を使って解決している子ども

# ~イメージの表出・共有を通して~

理科
５・６年 Ｆ組担任
辻本　和孝



現在，和歌山県下において，複式学級を有する学校は，和歌山県全体の小学校数の約３０％です。全国的に見ると高い割合にあたります。このような状況において，本学級での研究は，和歌山県下における複式校に対して，**「学年別指導の在り方」「積極的な異学年交流」**について提案し，複式学級の特徴である**【異学年集団】【少人数指導】**のよさをアピールしたいと考えました。当然，本校の学校提案にある**「学びの質の高まり」**と複式提案にある**「主体的に学び合う」**ということも含めています。また，私自身の研究教科が「理科」であることから，本校理科部の提案にある**「自然の“文脈”をさぐる子どもを育てる」**ということも意識しています。そこで，本年度の個人テーマを**「イメージの表出・共有から自然の“文脈”をさぐる」**としました。

この個人テーマを基に，複式のよさの見える実践を紹介したいと思います。

## ○実践報告（５年理科：電流のはたらき，６年理科：電気の利用）

今回紹介する実践は，来年度から始まる新単元です。５年生は６年生から移行してきた「電流のはたらき」，６年生は新しく導入される「電気の利用」です。どちらも同じ電気（電流）を対象とし，異学年交流を視野に入れた単元を構成しました。

### ①学年での交流（イメージの表出・共有）

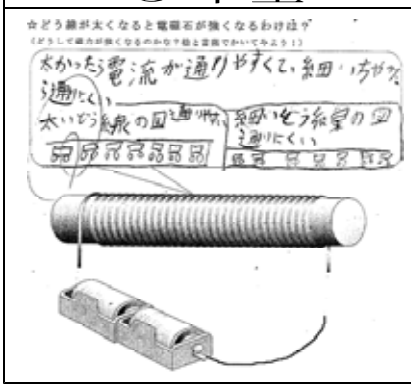
見えないものを見えるようにすること（表出）で，子どもたちの思考を深めたり広めたりしていきます。そして，友だちと交流すること（共有）で，自分の考えを更新していきます。

| ５年生 | ６年生 |
|---|---|
|  電流の強さを変えて実験したときの様子を，イメージとして表出しています。この児童は，電流が強くなるということは，トラックでたくさん荷物を運んでいることと同じだと考えました。電流がたくさん流れて，鉄心の中の小さな磁石もたくさん同じ方向を向くことで磁力が強くなると説明しました。 |  ニクロム線が発熱する様子を，イメージとして表出しています。この児童は，ニクロム線のところで電気が渋滞を起こし，混み合っているというイメージをもったようです。混み合うと熱を発すると考えました。熱を発すると言うことはそこにたくさんの電流が集まるということで，ニクロム線は電流を集まる所と説明しました。 |

このように，イメージを表出し，どのような根拠なのかを伝えることでイメージは共有されます。ただし,何の根拠もなく単なる想像ではいけません。**皆を納得させられるような説明がポイントです！**

### ②異学年での交流（ふり返りと見通し）

授業の終末部分で，異学年交流をはかりました。５年生はエナメル線の太さを変えたとき，６年生はニクロム線の太さを変えたときの実験です。

| ５年生 | ６年生 |
|---|---|
|  |  |

５年生は，太いエナメル線の方が磁力が強くなるわけを「たくさん電流が通るから鉄心の中にある小さな磁石がたくさん同じ方向を向く」とし，６年生は太いニクロム線の方が発熱量が大きいわけを「電流がたくさん通り，混雑もはげしくなるから」としていました。

このことを５・６年生の全体会として報告し合いました。５年生にとっては，６年生の内容が分からなくても今の学習が次にどうつながるのかという見通しをもつことになり，６年生にとっては，５年生の内容が復習となり確認することができました。そして，さらには，どちらにも共通することとして「電流が通る線が太いと，大きな力に変換できる！」ということを発見できました。

**異学年交流によって，２つの単元学習がつながったのです。**

これからも，積極的に異学年交流を行っていきたいと思います。

# 小学校英語活動の必修化に向けて！

## ～英語活動の授業展開に焦点を当てて～

英語活動
３年B組担任
辻　伸幸



平成２３年度から，全公立小学校の高学年（５．６年生）で，年間３５コマの外国語活動（原則は英語活動）が必修となることは，よく知られています。今年度から，各小学校で英語活動を推進するための中核教員が任命され，県や市主催による研修が始まっています。また，全国に約６００校の小学校を英語活動教育の拠点校として指定し，英語ノート（試作版）を使用した実践を重ねています。おそらく，拠点校以外の多くの先生方は，これからどのような準備や学習が必要なのか不安を抱かれているのではないでしょうか。この不安を解消する一つの方法が，英語活動のスムーズな授業展開だと考えています。

英語活動は，他の教科や領域と違って，子ども達に馴染みのないリズムや発音を持つ英語に慣れ親しませ，コミュニケーション活動へと発展していかなければなりません。また，中学校の英語科のような授業展開は，外国語活動の目標から考えても，子ども達の発達段階から考えても使うことができません。やはり，英語活動に適した授業展開が必要です。そこで，提案している授業展開が図１です。

【始まりのあいさつ】
↓
【ウォームアップ】
↓
【聞くことに慣れる】
↓
【発音することに慣れる】
↓
【コミュニケーション活動の橋渡し的活動】
↓
【コミュニケーション活動】
↓
【振り返り】
↓
【終わりのあいさつ】

図１　英語活動の授業展開

【ウォームアップ】は，子どもたちの「英語活動エンジン」を温めるような役割をします。コミュニケーション活動で使う表現を含むクイズやスキット，歌などが考えられます。

【聞くことに慣れる】は，発音を強制せず聞かせることに焦点を当てた活動です。発音する前に，しっかり理解できる英語を聞いて慣れることは，最近の研究で重要であることが科学的に分かってきました。ここでは，カードなどを使って単語や表現の意味を理解しながら楽しく取り組めるゲームが適しています。

【発音することに慣れる】は，聞いて理解できてきた単語や表現を発音することに焦点を当てます。日本語とは，大きく異なる発音やリズムに慣れ親しむ段階です。チャンツやゲームが有効です。

【コミュニケーション活動の橋渡し的活動】は，コミュニケーション活動へつなげるためのものです。例えば，京都の外国人観光客にインタビューすることをコミュニケーション活動と設定しますと，そのシミュレーションを行います。教室を京都の金閣寺に見立てて，ＡＬＴや担任が外国人観光客の役をして，インタビューの事前練習を行います。



金閣寺で外国人観光客にインタビューする子どもたち

【コミュニケーション活動】は，必然的なコミュニケーションが起こるような実際的な活動です。国際交流活動は，コミュニケーション活動として，最適の形態です。京都の外国人観光客や関西国際空港の外国人利用客へのインタビューや地域の外国の方との交流など取り入れることができます。

【振り返り】は，子ども達による自己評価などがあります。各々の活動についての３段階評価や自分や友達の良かったところなど自由記述することが考えられます。ポートフォリオとして，評価の一部に活用できます。また，指導者側の評価にも使うことができます。

具体的にどのような内容をそれぞれの活動で行えばよいのか，今後も，夏季教科別研修会や教育研究発表会で具体的なことを提案していきたいと思います。また，参考書や教材，情報が豊富にありますので，気軽にご連絡下さい。お待ちしております。

# らいぶコラム

## 2008修学旅行記～東京・富士への旅～

本校の修学旅行は二泊三日の体験型修学旅行です。参議院特別体験プログラムへの参加，富士樹海での洞窟探検，富士登山などの体験を通して社会のしくみを知ること，自然の素晴らしさを感じることをねらいとしています。今回のライブコラムでは２００８年度の修学旅行の様子を子どもたちの短歌と共にご紹介します。（６年担任　須佐　宏）

【１日目】東京駅に到着後，バスに乗り換えて国会議事堂へ。首相交代直後の国会議事堂に子どもたちは興奮気味でした。国会内では，法案成立までの手順を議長，大臣，副大臣，などの配役を決めて疑似体験。今回の模擬法案は，「自動車リサイクル法案」でした。





委員会では手を挙げて議長の指名を受けて発言します。国会議員役のみんなが見守る中，審議が進められました。

**《国会議事堂にて》議事堂は　すごく大きく　かっこいい　ぼくもあそこへ　立ってみたいよ　徳丸太一**

【２日目】富士樹海を訪れ，洞窟探検。インストラクターさんのご指導を受けながら樹海を案内してもらい，いざ洞窟へ。奥へ進むと光の届かない氷の世界が待っていました。





左：小さくなって進まなければいけない所も。　中：手前は氷の塊。　右：口を開けて富士の天然水をキャッチ！

**《樹海洞窟探検にて》溶岩で　自然に出来た　通りみち　最後の部屋は　氷の世界　清水理子**

【３日目】いざ富士登山。この日は山頂までくっきりと見える快晴。そして，五合目へ登ると見事な雲海が眼下に広がっていました。





左：澄んだ空に映える富士の山頂。　中：山肌を流れる水が凍っていました。右：雲海をバックにハイ，ポーズ。

**《富士山にて》富士山で　下にひろがる　雲海は　とてもきれいな　白いじゅうたん　日浦恵太**

**From Editors**

本校では，平成 21 年 1 月 30 日（金）に ICT 活用授業研究会 2008 を開催します。ぜひご参会下さい。詳しい情報は本校 HP をご覧下さい。


**和歌山大学教育学部附属小学校**

〒 640-8137 和歌山市吹上 1 丁目 4 - 1
電話：073-422-6105　Fax：073-436-6470
URL　http://www.aes.wakayama-u.ac.jp
E-mail　fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp